

第6章 豊かな人間性を育み、夢や希望がふくらむまちを創造する とき 時間

第1節 学校教育の充実

現状と課題

- 今日の教育の現状は、家庭における児童虐待等、家庭や地域社会の教育力の低下や、学校における不登校、いじめ、暴力、さらには非行や少年犯罪の低年齢化と凶悪化など様々な問題が発生しており、これらの具体的な対応と「心の教育」のさらなる実践は重要な課題となっています。
- 子どもたちの学力について、読解力など知識や技能を活用する基礎的な学力が低下しているとの指摘があり、学力に関する社会の関心の高まりや保護者の教育への要望の多様化を背景に、子ども一人ひとりの個性や発達段階に応じた指導方法への変換や教職員の資質向上が求められています。
- 本町の児童生徒数は減少傾向にありますが、学校には、内外の評価への分析・検討と教育活動の改善が、教育委員会には、学校評価のあり方への指導助言や地域住民の意見を取り入れた特色ある学校づくりが、今後ますます求められています。
- 学校施設は、子どもたちに教育を行う場所から、子どもたちの居場所づくりの場や地域コミュニティ育成の場、さらには、家庭教育や社会教育の領域までも含んだ複合的なものへと変化しています。そのため、子どもたちや地域住民の安全確保のために、危険建物と診断された校舎等の改修を最優先に行う必要があります。また、余裕教室や施設を学校教育以外に活用していくためのバリアフリー化等の改修も必要となっています。
- 子どもたちの偏食傾向から、統計的にあごの発達不足や運動能力が低下しているとの指摘もあり、学校給食を通して日常の食生活に関し正しい理解と望ましい習慣を養うことにより、次代を担う子どもたちの心身の健全な発達を促進する必要があります。

目指す姿

家庭や地域、学校など様々な主体が連携してそれぞれの役割を果たしており、次代を担う子どもたちは、将来の夢や希望を育み、自ら学ぶ意欲と学び方を身につけた心豊かでたくましい子に育っています。

成果目標

地域や町民が積極的に教育活動に参加し、その意見を反映した特色ある学校運営が推進されている。

施策名	特色ある学校づくりの支援		担当課	教育委員会教育総務課
指標	現状値	目標値 (平成 22 年度)	備考 (指標の説明、目標値の根拠、 データ取得方法等)	
学校評価による満足度	75%	90%	児童・生徒及び保護者へアンケートによる満足度調査を実施	
主な事務事業	○特色ある学校づくり推進事業			

【関連：次世代の育成／新たな公共づくり】

児童・生徒及び教員がより良い環境で学習することができ、健康面でも安心して学校生活が送れるようになっている。

施策名	学習環境の整備・充実		担当課	教育委員会教育総務課
指標	現状値	目標値 (平成 22 年度)	備考 (指標の説明、目標値の根拠、 データ取得方法等)	
学校の耐震化整備率	75% (H18)	100%	平成 22 年度までに全学校施設の耐震改修工事を実施	
主な事務事業	○学校教育施設整備事業			

【関連：健康づくり／次世代の育成】

児童・生徒の食事に対する正しい理解と習慣が養われており、栄養の改善及び健康の増進に役立っている。

施策名	学校給食の充実		担当課	教育委員会教育総務課
指標	現状値	目標値 (平成 22 年度)	備考 (指標の説明、目標値の根拠、 データ取得方法等)	
児童生徒の給食を食べた量の割合	81.9%	90%	給食終了後の回収された残菜の量で測定	
主な事務事業	○施設維持管理事業			

【関連：健康づくり／次世代の育成】

行政の果たす役割

- 教育委員会運営のスピード化を図り、今後の町の教育行政のあり方について方向付けをする。
- 地域と連携した学校運営が推進され、きめ細かな教育活動が展開されるよう、指導助言と条件整備を行っていく。また、学校評価の実施と教育改善が図られるよう支援していく。
- 学校施設整備の最重要の基準を、児童・生徒や教職員、地域住民の安全確保におき、計画的に整備を行う。
- 衛生管理の徹底により、食中毒の防止を図りつつ安定した給食提供を行う。また、栄養知識の周知や栄養指導に力を入れ、食事と栄養に関する正しい理解を養っていく。

【教育総務課】

町民に期待する役割

- 学校から発信される情報等から学校を理解いただき、家庭や地域と学校とが連携していくことを期待します。
- 保護者や地域住民のボランティア等による積極的な教育活動への参加と学校支援が望まれます。
- 登下校時等における児童・生徒の安全確保への協力を期待します。

【教育総務課】

第2節 文化財の保存と活用

現状と課題

- 本町には、岩屋古墳に代表される竜角寺古墳群、神社仏閣、数々の伝説や民話など、貴重な文化財や歴史資料が多く残されています。日本国内においても、世界遺産の登録など地域が誇る文化財に対して関心が高まっており、周辺地域でも週末を利用した地域探索などが積極的に行なわれています。
- 歴史的に貴重な文化財は、次代に受け継がなければならない“ふるさとの宝”であることは当然ですが、指定文化財を生かした町並み保存など、全国各地で文化財を取り込んだ地域づくりも盛んに行われており、今後は、観光振興や郷土愛の醸成のためにも、文化財指定の拡大も必要となります。

目指す姿

竜角寺古墳群全体が国指定史跡として追加指定され、町民は、その他の文化財や歴史的資料などとともに郷土の歴史に関心を持ち、後世に伝え、愛郷心が高まっています。

成果目標

重要文化財や開発行為によって消滅する埋蔵文化財の記録などが保存されている。

施策名	歴史文化遺産の保護・継承		担当課	教育委員会教育総務課
指標	現状値	目標値 (平成 22 年度)	備考 (指標の説明、目標値の根拠、 データ取得方法等)	
指定文化財件数	町指定 7 件 (参考) 国指定 3 件 県指定 5 件	町指定 20 件	有形文化財（建造物、彫刻、古文書、考古資料など）、民俗文化財（民俗芸能など）に係る特に重要な文化財について保護するとともに活用する	
主な事務事業	○文化財の保全・活用事業			

【関連：次世代の育成／産業・観光の活性化】

行政の果たす役割

- 町内に所在する有形文化財、民俗文化財の指定を推進する。
- 開発に伴い、やむを得ず記録保存を行なう遺跡に係る指導、調整を徹底していく。【教育総務課】

町民に期待する役割

- 文化財所持者及び埋蔵文化財所在地の地権者等に、文化財の重要性と保護及び記録保存に伴う調査に関して理解、協力いただくことを期待します。【教育総務課】

第3節 生涯学習の推進

現状と課題

- 行政に対して、様々な生涯学習機会の提供についてのニーズがありますが、近年では、自主的に同じような考えを持つ人たちが集い、少人数のグループをつくり独自に学習を行う町民が増えています。今後は、そのような自主的活動を応援する体制づくりを行っていく必要があります。
- 町民の文化芸術活動の拠点である「ふれあいプラザさかえ」は、情報化社会の中であって、文化事業へのニーズが古典的なものから先進的な企画まで多様化していることや、個人の生涯学習活動の広がりから施設の利用方法などが多岐にわたっている現在、指定管理者制度の活用など民間活力の導入を見据えて、管理運営面での充実を図っていく必要があります。
- 生活の利便性や物の豊かさに伴い、日常生活における身体活動が減少していると言われています。一方、生活水準の向上や自由時間の増大により、心身ともに健康な生活を営むことを重視する意識も高まっており、スポーツを日常化することにより、健康保持増進、体力の向上のための豊かなスポーツライフの実現が望まれているため、スポーツ環境の充実が必要となります。
- スポーツ・レクリエーション活動は、これまでの健康、体力の保持・増進から、友人や家族間の交流、ふれあいなど、コミュニケーションを目的に、それぞれの年齢や体力に応じた多種多様な活動を望む傾向にあります。このため、施設の効率的な整備と有効活用により、手軽に利用できる活動の場を提供していく必要があります。

目指す姿

町民は、様々な機会や場において主体的に学習しており、学習した成果をまちづくりに活かし、健康で活力に満ちた生活をしています。

成果目標

生涯学習に取り組む町民が増え、学習したことを地域に還元している。

施策名	生涯学習環境の充実		担当課	教育委員会生涯学習課
指標	現状値	目標値 (平成 22 年度)	備考 (指標の説明、目標値の根拠、 データ取得方法等)	
ふれあいプラザ利用 サークル数	65 団体 1,093 人	70 団体 1,200 人	自主的な講座開催を行うサークル 数	
いきいき塾さかえの 講座開催数	年 40 回	年 80 回	生涯学習アドバイザー等による行政講座における講師等の活躍状況	
主な事務事業	○生涯学習推進事業			

【関連：健康づくり／次世代の育成／産業・観光の活性化／新たな公共づくり】

情報の発信の場、町民相互の情報交換の場として、文化芸術活動が盛んにな
っている。

施策名	文化芸術発信拠点の充実		担当課	教育委員会生涯学習課
指標	現状値	目標値 (平成 22 年度)	備考 (指標の説明、目標値の根拠、 データ取得方法等)	
ふれあいプラザ利用 者数	205,518 人	250,000 人	住民一人当たり年 10 回の利用を目 指す	
主な事務事業	○自主文化事業 ○文化・芸術団体の指導及び育成事業			

【関連：健康づくり／次世代の育成／産業・観光の活性化／新たな公共づくり】

スポーツを通じ町民相互のふれあい、健康づくり、体力づくりが進められて
いる。

施策名	生涯スポーツの振興		担当課	教育委員会生涯学習課
指標	現状値	目標値 (平成 22 年度)	備考 (指標の説明、目標値の根拠、 データ取得方法等)	
体育協会専門部数と登録人数	21 専門部 1,375 人	25 専門部 1,500 人	年に 1 団体の新たな設立と登録人数約 30 人の増加を目指す	
主な事務事業	○スポーツ競技力向上事業 ○スポーツ・レクリエーション交流事業			

【関連：健康づくり／次世代の育成／新たな公共づくり】

行政の果たす役割

- 町民が生きがいを持ち、健康で活力に満ちた生活を送ることができるよう、時代と共に求められる生涯学習のニーズを的確に把握し、団体の育成や人材の発掘により、町民との協働による事業展開を推進するための環境づくりと調整を行う。【生涯学習課】

町民に期待する役割

- 生涯学習の真の主役は住民であることを自覚していただき、自ら積極的に活動の企画運営を行い、活動を通して得た知識や行動を活かして、まちづくりを担う人材として活躍するとともに、生きがいのある生活を営むことを期待します。【生涯学習課】